

<環境学習・環境保全等の活動：榎野川流域>

流域では様々な活動が行われており、河口域～中流では、NPO 法人野鳥やまぐちによる野鳥調査や榎野川漁業協同組合等によるアユの産卵場造成・河川清掃・ナルトビエイ駆除、上流の“四季の森”では、仁保自治会による森林の整備等が行われています。



実施日	場所	内容
4月	耕耘前後	●底生生物（ベントス）調査
	23日	●第20回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議 ●AQUA SOCIAL FES!! 2016（干潟再生活動） ＜榎野川流域連携促進協議会、県漁業協同組合吉佐支店山口支所＞
6月	12日	●森林整備 ＜仁保自治会＞
7月	～10月	●ナルトビエイ駆除 ＜榎野川流域活性化交流会＞
	4日	●カブトガニワーキンググループ打合せ会議
	23日	●ふしの川水系クリーンキャンペーン ＜榎野川漁業協同組合、山口市＞
8月	1日	●環境省「地域循環共生圏構築事業」採択
	6日	●カブトガニ産卵観察会 ＜山口カブトガニ研究懇話会＞
	20日	●カブトガニ幼生生息調査、カブトガニ観察会 ＜カブトガニWG＞
	30日	●「総合的な沿岸域の環境管理の在り方プロジェクトチーム」における取組紹介
9月	1日	●カブトガニ幼生生息調査 ＜カブトガニWG＞
	11日	●ふしの川漁協まつり、水辺の教室 ＜榎野川漁業協同組合、榎野川流域活性化交流会、市環境政策課＞
10月	18日～19日	●環境省「地域循環共生圏構築事業」打合せ
	22日	●アユ産卵場造成・漁場整備、河川清掃 ＜榎野川流域活性化交流会＞
	25日～26日	●平成28年度全国自然再生協議会会議
12月	4日	●野鳥の教室 ＜市環境政策課・NPO法人野鳥やまぐち＞
1月	28日	●環境省「地域循環共生圏構築事業」の有識者等の現地視察受入れ
	29日	●第21回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議
3月	上流（宇津木の里）	●森林整備 ＜榎野川流域活性化交流会、宇津木の里＞
	干潟（土路石川河口）	●野鳥調査 ＜NPO法人野鳥やまぐち＞
	干潟（南潟）	●アサリモニタリング調査＜県環境保健センター＞
	干潟（南潟）	●被覆網の手入れ等（計5回）

【問い合わせ先】

榎野川河口域・干潟自然再生協議会事務局 山口県環境生活部自然保護課
 TEL : 083-933-3060 FAX : 083-933-3069 Mail : a15600@pref.yamaguchi.lg.jp
 ホームページ : <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>
 Facebook : <https://www.facebook.com/fushinogawasaiseikyougikai/>

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

ニュースレター

No.13

発行日：平成29年3月

事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、平成28年度に榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。

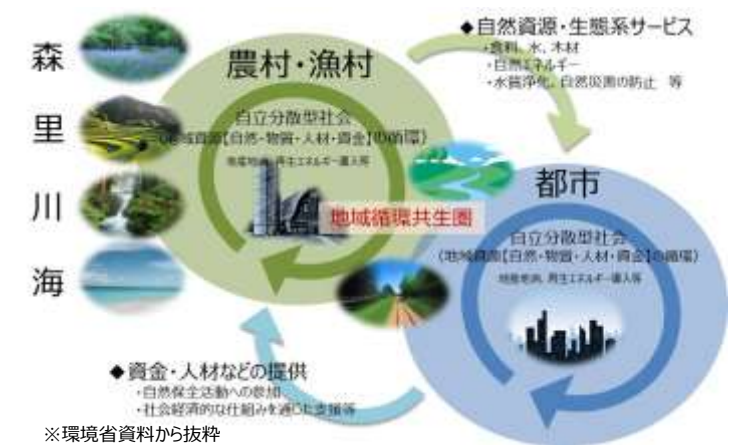
つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト（環境省） 地域循環共生圏構築事業の活動団体に採択！！



本協議会は、環境省「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」における「平成28年度地域循環共生圏構築事業」の活動団体に採択されました（平成28年8月1日）。

本事業は、今年度から3箇年の予定で、①自立のための経済的仕組みづくり、②多様な主体が参加するプラットフォームづくり、③人材育成の取組を実施し、**地域での活動が継続することで、地域の環境・経済・社会の各課題の統合的解決**への糸口を見つけることを目的としています。

今年度は、事業の本格的なスタートに向け、活動状況や課題の情報共有、取組の検討、他の地域の活動団体との意見交換等を行いました。



<榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議>

第20回会議

4月23日に山口県漁協吉佐支店旧山口きらら支所で開催し、参加者は53人でした。

今年度から第7期委員での活動が開始し、会議では、昨年度の活動報告の他、順応的取組促進専門委員会の関根 雅彦委員長から、これまでの活動に関する評価及び提言の発表、後藤 益滋委員から、耕耘前後のベントス相の変遷についての講演等がありました。

第21回会議

1月29日にセミナーパークで開催し、参加者は44人でした。会議では、今年度の活動報告の他、環境省事業に関わる取組内容について、ワークショップ形式での意見交換を行いました。



干潟再生活動 & 榎野川流域づくり活動トピックス

<榎野川 森・里・川・海 自然再生プロジェクト：榎野川河口干潟>

4月23日に毎年恒例の干潟再生活動が行われました（主催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所）。

今年もトヨタ自動車の協賛、山口新聞社の後援で、「AQUA SOCIAL FES!! 2016」として開催しました（5年目）。作業の前には、榎野川流域の幸：アサリ汁・稚アユの天ぷら・山菜の天ぷらが振る舞われました。



榎野川河口干潟（南潟）



県漁協吉佐支店山口支所

アサリ汁の試食会

稚アユ・山菜の天ぷら



今年度は、地域住民をはじめ、山口大学・水産大学校・山口県立大学の学生約50人、地元企業約70人にもボランティア参加をいただき、総勢**270人**（過去最高）が参加しました！（協力企業：山口トヨタ、ネットヨタ山口、トヨタカーラ山口、山口トヨペット、株式会社伊藤園、積水ハウス株式会社山口工場）

“掘って掘って。アサリがすみよい干潟にしよう”をテーマに、50m×60mの範囲の干潟耕耘、生き物観察会、潮干狩りなども行いました。子どもたちは、干潟に棲む珍しい生き物を探し、講師の説明に興味津々の様子でした。潮干狩りで獲れたアサリは13kg！少しずつですが、皆様にお持ち帰りいただきました。

まだ年に1度ですが、アサリ汁のふるまいや潮干狩りなどにより、参加者の方に活動の成果をお返しできるようになりました。これからも様々な主体の連携・協働による「里海の再生」を進めていきます！



耕耘作業



生き物観察会



潮干狩り

<アサリ再生活動：榎野川河口干潟>

アサリのための被覆網管理（南潟）

干潟には、アサリを生育させるため「被覆網」を張っています。網を張っていないと、ナルトビエイやクロダイ等による食害、波浪による稚貝の散乱などの影響でアサリが順調に育ちません。毎年アサリ汁をふるまえるのも、この被覆網のおかげですが、長期間放置していると、やぶれや海藻の付着等の問題が起きます。網の交換は、たいへんな作業ですが、ボランティア等のご協力により無事に行われました。



アサリのモニタリング調査（南潟）

アサリの生育状況を確認するため、アサリの個体数と大きさを定期的に調査しています。

今年も順調に生育しており、秋のモニタリングでは、3cm以上（漁獲可）のアサリが900個/m²以上確認できた地点（被覆網下）もありました。4月のイベントで張った網下のアサリも2月（冬）には1864個/m²に増えています。次の春のアサリの成長が楽しみです♪



モニタリングでのアサリ



水産大学校のボランティア

<カブトガニ生息場・産卵場の保全に関する活動：榎野川河口干潟>

カブトガニ幼生生息調査（南潟・長浜）

山口湾には“生きて化石”カブトガニが生息しています。本協議会では、毎年カブトガニワーキンググループ（山口カブトガニ研究懇話会 原田 直宏グループリーダー）を中心に生息数調査を行っています。

今年度は、8月20日に長浜で、9月1日に南潟で行い、長浜調査には、県外の方や小学生など様々なボランティア計48人が参加し、テレビや新聞にも報道されました。子ども対象のカブトガニ観察会も行い、干潟とのふれあいを満喫いただきました。無事に調査を終えることができ、ご協力いただきました皆様に感謝いたします。



長浜調査のボランティア



カブトガニ観察会-生き物ビンゴ



カブトガニ幼生

